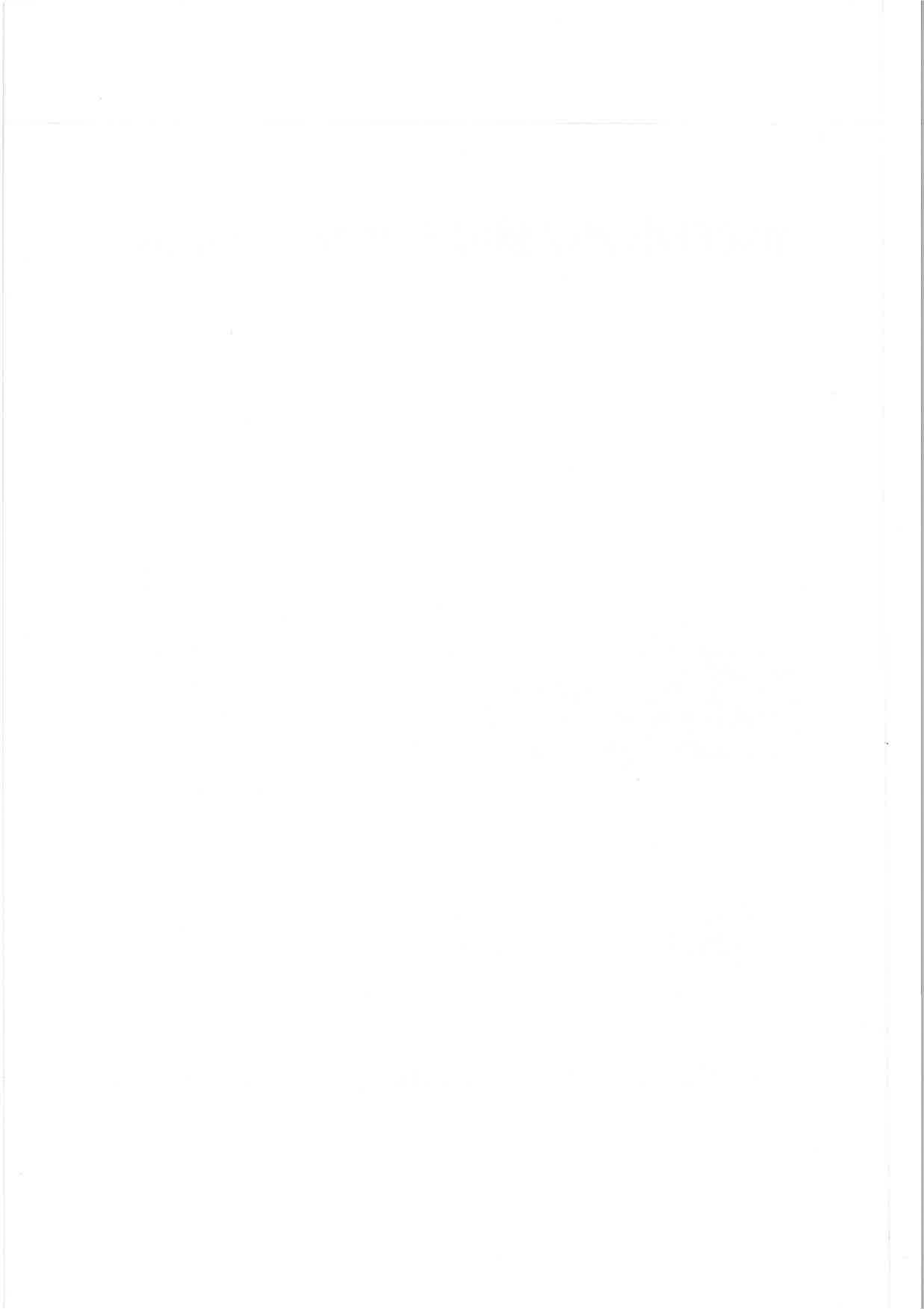


# 沖縄県小児保健協会35年のあゆみ







## ご挨拶

社団法人沖縄県小児保健協会  
会長 玉那覇 榮一

本協会は、「健全なる社会の発展は、健全なる小児の育成になければならない」という趣旨で、復帰の翌年に設立され、35年の節目を迎えることになりました。当時の沖縄の子どもたちを取り巻く劣悪な環境のもとで、奮闘された先輩諸氏のご苦勞には、頭の下がる思いです。

当時生まれた子どもたちが30代半ばになり、親として、社会の中核として活躍される姿をみて感慨ひとしおです。

さて、わが国の小児保健の現状は、世界的にも高い水準にありますが、一方では、年々少子化が進行し社会的には深刻な状況にあります。また、核家族化の進展と地域の連帯感が希薄化する中で若い母親の孤立と育児不安の増幅等、子育て環境が厳しさを増す一方で、児童虐待や子どもに関連する犯罪が社会問題として注目され、心痛む報道が続いております。さらに、「太る沖縄、むしばまれる長寿県」と題して、全国紙でも報じられましたように、米国占領下で脂肪分の多い食生活で育った沖縄の人たちが全国一の肥満率と多発する脳梗塞・心筋梗塞などの生活習慣病で、急速に健康状態が悪化し、今や、疾患別の死亡率でみると、心疾患や脳血管疾患などによる死亡率は、どの世代でも沖縄男性は全国上位で中高年の女性も、心疾患などによる死亡率が高いことが指摘されました。いまや長寿県という名は、風前の灯であります。

これからの小児保健は、「健やかな一生」の端緒として、母乳保育の推進から始まり、幼児の食生活習慣や心の問題を含め、より質の高いサービスを追求し、保健・医療・福祉・教育分野が互いに連携を図り、幅広い視点での展開が求められております。

これまで同様に予防可能な疾患から子どもを守るための活動に併せて、幅広い「子育て支援」を、中核事業である乳幼児健診を通して充実させて参ります。さらに、沖縄県小児保健協会は平成20年12月に沖縄小児保健センターを開設し、ここに活動の拠点ができたことを機会に、新たな段階を迎えました。35年の時の変遷を経て、新しいニーズの多様化に即応した活動理念と方針を確立して、「すべての子どもに生きる力と夢見る心を」をテーマに、子どもに関わる全ての人の連携を図るネットワークを構築し、その中核として活動して参ります。

これまで同様に、会員各位、関係者の皆様方のご協力をお願い致します。

